



一層、所作の美しい子に

校長 小川 泰文

はきものをそろえると 心もそろう

先日、子どもたちに5・6年生が靴をしっかりとそろえていた場面を紹介し、称賛しました。日本の生活様式では靴を頻繁に脱ぎます。脱いだ靴がどのようになっているかは、その人の心のありようで様々です。

冒頭の言葉は、かつて長野県の住職さんがつくられた詩の書き出しで、大変有名です。

心がそろうと はきものもそろう

ぬぐときにそろえておくと はくときに心がみだれない
だれかがみだしていたら だまってそろえておいてあげよう
そうすれば 世界中の人の心もそろうでしょう

と、続きます。

脱いだ靴がそろえてあると、それを見た人の心が和みます。つまり、相手のことを思いやる行動になっています。同時に、自分の心も落ち着きます。反対に、散乱した靴を見た人は、どんな思いをするか、すぐに想像できます。靴をそろえることは、教育にとって、おろそかにできません。たかが靴をそろえること。されど靴をそろえることです。

所作が美しいと、ともに生活する人のところが豊かになるようで、生活自体にしみりや活気を感じます。そして、一人一人が一層輝いて見えます。

こうした靴をそろえることは「しつけ」の一つと言えます。「しつけ」というと、どのような印象をもたれるでしょうか。中には、「口うるさく言う」「厳しくする」などの印象が強く、抵抗のある方もおられると思います。

しかし、しつけは必ずしもこのようである必要はありません。子どもに、なぜそうしなければならぬか納得させ、できた時には褒めていくことを粘り強く行っていくことこそ、しつける行為ではないでしょうか。

躰（しつけ）という字は、外国から伝わったものではなく、日本で考えられた字といわれます。子育てについて古来よりこの国で大切にしてきた考え方です。時に裁縫の「しつけ糸」の役割と重ねて語られます。

しつけ糸は、ずっと役割があるのではなく、いずれ外されるものです。子育てにおける躰も、身に付いたと思われる頃に行われなくなります。しつけ糸をスーッと抜くその時が躰を終え、子どもが自立するときと表現されます。

集団生活において、様々な所作を学んでいく北っ子。よさと可能性をもった子どもたちの将来を見据え、一層、所作の美しい子にしていきましょう。

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果

文部科学省による「全国学力・学習調査」が4月に6年生を対象に実施されました。その結果について概要をお知らせします。今年度は、国語、算数、理科の3教科の実施でした。

【燕北小の平均正答率（％）と新潟県との比較】[対象は6年生]

	燕北小	新潟県	全国
国語	73	66	66.8
算数	63	56	58
理科	58	55	57.1

いずれの教科も全国・県平均を上回る結果となりました。5年生までの学習内容がしっかり身に付いています。

今後も本調査結果を生かし、指導方法について工夫・改善していきます。日々の授業に加え、リーディングスキル、読書活動、燕長善タイム、家庭学習の充実に向けて、一人一人に確かな学力を育てていきます。

「心の授業参観」とPTAガラス拭き作業



9月19日（金）の学習参観には、保護者の皆様から来校いただきありがとうございました。全学級で「道徳」授業を公開し、子どもたちが自分の心と向き合い、考えたり、話し合ったりする姿を見ていただきました。

また、学習参観後にはPTAガラス拭き作業が行われました。今年度から休日ではなく、参観日の折に実施となりました。子どもたちにも大勢参加してもらい、環境を整えることができました。参加していただいた皆様、大変ありがとうございました。

不審者対応避難訓練を行いました

9月12日（金）、燕警察署の方にご協力いただき、不審者対応訓練を行いました。

まず、不審者が校内に侵入した想定で、避難訓練を行いました。その後、不審者に遭遇したらどうしたらいいか、代表児童がロールプレイを行いながら、適切な行動を考えました。



6年生 親善陸上大会テントでの様子